

口から食べる大切さ

～困難事例への挑戦～

施設名:介護老人保健施設 桜山荘

発表者:金城ゆかり

【はじめに】

高齢者にとって末永く口から食事が摂れることは意義深く、年々その支援は注目を集めている。

今回、ミールラウンドの開催方法を見直したことで多くの職員の意見が集まりやすくなり、また困難事例に対して地域の病院から助言をもらい多職種連携のもと、より良い食事調整ができた。食事支援の大切さを改めて学ぶことができたので考察を交えて報告する。

【これまでのミールラウンドの開催方法と課題】

- ・評価項目が多く、開催者の業務負担が大きかったため対象者を増やすことができなかった。
- ・多職種各自で食事評価を行い、別室で会議を設けていたため、決まった職員の参加が目立っていた。

【ミールラウンドの開催方法の見直し】

- ・評価項目を厳選し、また司会進行や記録方法の簡素化に取り組むことで対象者が増え、意見交換の機会が増えた。
- ・会議をラウンド形式とし、利用者様の食事場면을観察しながら意見交換を行うことで、より多くの職員の声が反映されるようになった。

【困難事例への対応】

上の取り組みにより、職員の食事評価への意識や課題解決に改善がみられていたが、困難事例と遭遇した際、対応に苦慮したため以下の対応を試みた。

① 事例紹介

A氏、80代男性、疾患名：誤嚥性肺炎。

入所当時から経口摂取困難で看取りの方針と情報あり、数口でも強く咽る状況が見られた。

② 地域の病院との連携

摂食嚥下認定看護師に状況を伝え、姿勢調整、介助方法、補助食品の選定などについて助言をいただき実践した。

③ その後の経過

1年以上、経口摂取が継続でき、食事の際には喜ぶ様子が伺えた。

【考察】

食事摂取不良は複数の原因が考えられるため、多職種協働のもと支援にあたることが重要である。

今回、ミールラウンドの開催方法を見直したことで、多くの職員から意見が集まるようになった。さらには、ひとりの意見に触発されて、新たな意見が生まれるといった相乗効果もみられ、改めて多職種によるチームアプローチの意義を感じることができた。

次に困難事例に対して、専門家からの助言を参考に多職種で課題解決に取り組んだことで、一年以上の経口摂取を継続することができ、改めて『口から食べること』の尊さを感じることができた。この経験を活かして、今後はさらに認識を深め、全職員で共有し合い、よりよい食支援につなげていきたい。